

普及センターだより

未来 ひだか

みらくる

2016年1月

日高農業改良普及センター

迎春



平成27年11月24日 「次代を担う農業青年ゼミナール」大塚ファームにて視察研修

可能性は無限 30代の意識に注目！ 次代を担う青年農業者ゼミナール生の活動を紹介します。

平成27年3月に開講式を行い、日高管内各町から集まった青年13名でスタートした2年間のゼミナールです。管内全域でのこうしたゼミナールは初めての企画で、地域の指導農業士・農業士や農業生産法人、生産部会のリーダーなどの意見を基に開始しました。

昨年は第1期生として盛りだくさんのメニューに取り組みました。

7月：農作業の合間を見ながら夜の交流会。

9月：日高指導農業士会会長の渡辺農場で、肉牛HACCPの取り組みを視察研修。
日高振興局産業振興部市川部長との意見交換。

11月：(有)大塚ファームへの視察研修(新篠津村 平成26年日本農業賞受賞)

12月：講演会 講師：VIVAマルシェ 高橋代表

(2014年度地産地消優良活動表彰農林水産大臣賞)

平成28年は、1月からディスカッション形式で様々なテーマについて議論を深め、地域の課題解決や自らの経営について、何ができるかを話し合っていきます。

また、今年度は平成29年から開講する2期生の募集を開始します！

参考にしよう！ 地域の活動事例

～詳細は日高農業改良普及センターホームページで紹介しています～

アドレス <http://www.hidaka.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>

優良繁殖牛保留に向けた育種価の活用

【広域・肉牛】

複合作目として黒毛和種の導入が進んだ地域を中心に、繁殖雌牛の高齢化に伴う淘汰頭数の増加が見込まれており、管内JA・町では優良雌牛を保留するための様々な支援対策に取り組み始めています。

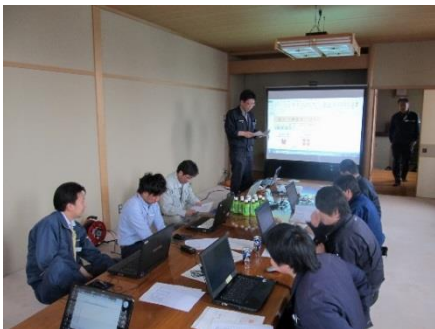
新冠町では町和牛育種推進協議会を主体に、町和牛センターに預けられた肥育牛の育種価評価や総合指数が判明しはじめ、選定した高能力雌牛に対し交配計画を示すなどの取り組みが行われています。

普及センターでは育種価の活用を目指すため「黒毛牛群管理ソフト」（畜産試験場作成）の利用をこれまで試行的に勧めてきており、平成27年4月には日高和牛振興協議会・改良委員会において、ソフトの利用法についてJA和牛担当者研修を開催しました。

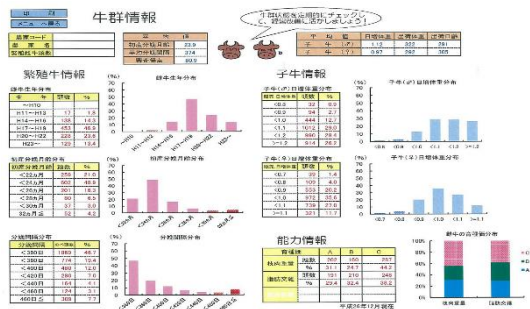
現地での取り組みとして、浦河町ではモデル的に3戸の肉牛飼養農家にデータを示し、これまでの繁殖管理状況の点検を行っています。新ひだか町静内和牛生産改良組合では、このソフトを利用して「牛群情報」、「繁殖牛能力一覧」等の資料を全戸配布するなど個別に巡回指導を実施するとともに11月19日には研修会を開催し、総合的な自家保留に向けた啓蒙活動を行いました。

実際にデータを見た方からは「グラフや表で自分の牛の繁殖成績や子牛の能力が示され、わかりやすい資料だ」という声が聞かれています。

こうしたソフトを活用し、総合的な判断基準を用いながら高能力雌牛を自家保留することで、黒毛和種経営の強固な生産基盤づくりが期待されます。



JA担当者を対象とした利用法研修会
(H27年4月日高和牛改良委員会)



生産者に配布された帳票（黒毛牛群管理ソフト）

「特別栽培米」の取組みが拡大！その要因は？

【東部支所】

特別栽培米（化学農薬・肥料の5割減）は単価も高くチャレンジしてみたいと考える農業者も多いため。ただ「慣行栽培よりも収量が減ってしまうかも…?!」と頭をよぎらないでしょうか。

でも大丈夫。特別栽培米の地産地消を進めている、浦河町と様似町の米生産組織では、種籾の温湯消毒や発酵鶏糞などで化学農薬・肥料を代替し慣行栽培並の収量を確保しています。

「同等の収量と3割高の単価」であることから面積・戸数は年々増え、平成27年は作付けの約6割に躍進しています。



セブンイレブンの特設コーナーで販売されている「浦河の特別栽培米」

省力！高品質！グラスサイレージ収穫調製技術！

【日高町・新冠町】

酪農の規模拡大や労働力不足に伴い、集団や機械利用組合を活用して自走式ハーベスタによる牧草収穫を選択する酪農家が増えています。自走式ハーベスタでの牧草収穫は、天候に左右されにくく、1日15ha程度の面積をこなすことができるため、品質の安定化と労働軽減が期待できます。

JA門別町・JAにいかっぴの各粗飼料生産組織では、高品質サイレージを作るための技術向上をめざし、様々な取り組みを行っています(①～④)。

各地域での取組事例（作業のポイント）

①異物混入防止対策



高刈り（10cm以上）

②原料草調整



切断面の確認

③踏圧作業



横踏みの励行

④早期密封



早期密封の励行



地盤整備（石炭灰使用）



切断長の確認



踏圧密度の確認



土載せ

原料草の水分調整と均一な踏圧をかける事に留意した結果、良質なサイレージを作る事ができます。機械化により給餌作業が軽減され、牛の管理が良くなるようになった等の感想が聞かれています。

H27年産サイレージの発酵品質（Vスコア）

農家	A	B	C	D	E
Vスコア	89.2	87.4	93.0	95.9	95.3

全ての農家で目標数値80点以上の品質を確保

機械による日常の給餌作業



十分な取出し量(50cm以上)確保により、二次発酵防止



自走給餌機導入により、給餌作業が軽減された

ハウスへの侵入を防いでアザミウマ被害を軽減！ 【新冠町・浦河町・様似町】

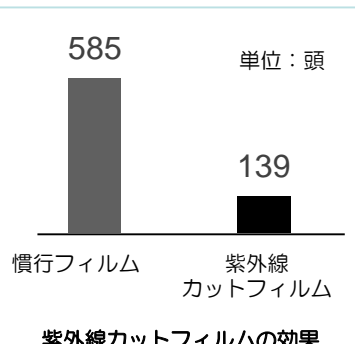
アザミウマは小さく発見しにくい害虫ですが、紫外線カットフィルムや防虫ネットなどを用いて、ハウス内への飛込み数を減らす事ができます。普及センターの事例調査では紫外線カットフィルムでおよそ7割、光反射シートで4割程度減らすことができます。



成虫の体長は1.数ミリで肉眼で観察しにくい



写真の青色粘着版を設置してカウントした6月中旬～9月下旬の飛込み捕殺累計数
H25年新冠町、ピーマンハウス（100坪）



紫外線カットフィルムの効果



光反射シート（ハウス外側）と防虫ネット（二重ハウス側面）の併用事例（浦河町、いちご）

注目！ 地域の話題コーナー

「北海道指導農業士会現地研修会inひだか」を新ひだか町で開催 【広域】

平成27年10月20～21日、全道から指導農業士、関係機関を含めて79名が集いました。

研修会は「新規参入者の受け入れと定着に向けての取り組み」をテーマに、日頃、地域で行っている支援について意見交換を行い、各地の取り組みについて理解を深めました。また新規参入者の研修施設であるハウス団地や、肉牛HACCP推進農場の渡辺農場の視察では、技術習得の支援方法などを情報交換し、今後の活動に活かせるよう、資質向上に努める熱心な様子が見られました。



日高管内「クリーン米」情報交換会開催

【広域】

平成27年11月13日、農業改良普及センター会議室に水稻生産者代表や農協職員28名が集まり、栽培や販売に関する各地区の取り組みについて情報交換を行いました。

情報交換では栽培技術に関する日頃の悩みや、販路の工夫、部会での取り組みを推進するための方法など、様々な内容の意見が交わされました。

普及センターからは付加価値を付けるための規格や包装に関する情報提供を行い、実際の包装形態を見てもらい出席者に関心を持っていただきました。

昼食は管内の「クリーン米」4種類を試食。

各々の地域の取組を再検討する場となりました。



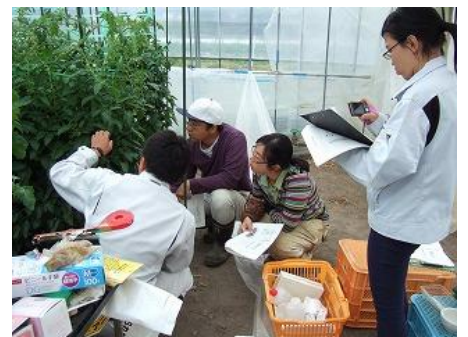
各地のクリーン米を試食する出席者
味の確認(?)におかわりする人もいました

農業スキルアップ ～ 農村ゼミナール「ステップアップ講座」～ 【平取町・日高町】

西部支所では就農間もない農業者や農業研修生を対象に、農業・農業経営に関する基礎的な知識・考え方を学び、円滑な就農に資することを目的に24年より農村ゼミナールを開催しています。

本ゼミナールは2年間を基本とし、1年目は「基礎講座」、2年目は更なる専門的な知識・技術の習得と経営感覚の醸成を目的に「ステップアップ講座」へと移行します。

現在2組のご夫婦（2戸4名）がステップアップ講座のゼミ生として、西部管内の主力作物であるトマト、アスパラガスについて、夏期の現地研修から冬期の座学研修に積極果敢に参加し、農業スキルを磨いています。



トマトの草勢診断技術を学ぶ受講生
(中央)

日高農業改良普及センター本所 TEL 0146-42-1489 FAX 0146-42-2521
〒056-0005 日高郡新ひだか町静内こうせい町2丁目2番10号

日高農業改良普及センター日高東部支所 TEL 0146-22-9347 FAX 0146-22-2559
〒057-8558 浦河郡浦河町栄丘東通56号 日高振興局内

日高農業改良普及センター日高西部支所 TEL 01457-2-2055 FAX 01457-2-2918
〒055-0107 沙流郡平取町本町105-6

日高農業改良普及センターホームページアドレス <http://www.hidaka.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>